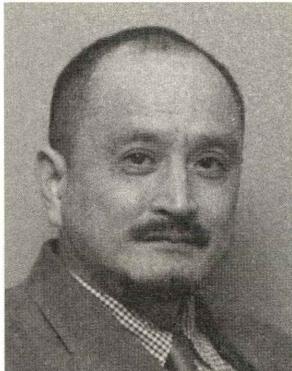


「子ども歯科へのレーザー応用」



おおの小児矯正歯科 院長

大野 秀夫 (おおの ひでお)

● 略歴

- 1978年 九州歯科大学 卒業
九州歯科大学大学院歯学研究科博士課程 入学
- 1982年 鹿児島大学歯学部小児歯科学講座 助手
- 1987年 長崎大学歯学部小児歯科学講座 講師
- 1988年 山口県下関市：おおの小児矯正歯科 開院
現在に至る

現在、わが国では少子化の急激な進行、疾病構造の変化そして子ども達の心と行動の問題などから、子どもの医療は様々な課題が山積みである。従来の疾病の対応を中心とした医療の枠組みでは適切な医療を供給することが困難となっており、全人的・包括的視点の重要性が協調され、ひとりひとりの子どもさらに家族を含めて包括的に診ることが求められている。このように医療は時代と地域に応じた変化が要求される。現在の日本の医療としての問題点は少子高齢化に伴う「子育て支援」である。当然であるが、歯科医療においても“子どもの心を育む医療”の展開が必要とされる。

子どもの歯科医療を実践するにあたり医療者側にとって重要なことは、全人的・包括的・継続的視点が要求される。そのためには医療者と子どもおよびその親御さんとの **Communication** が常に図られていることが重要なポイントである。また、これまでの歯科医療機器を代表するタービンやエンジンは一般の人々に“恐怖感”を連想させる。レーザーではその点の問題はなく、患者さんとの **Communication** を発揮する機器と思われる。

レーザーは予防から治療まで歯科医療の様々な分野で広く用いられている。おおの小児矯正歯科では、子どもの歯科医療の中にレーザーをどのように使用するか試行錯誤してきた。その過程もふまえて当医院でのレーザーの運用の実際をお話する。

構成は以下の通りである。

I. レーザーを応用するための基本的な考え方

1. これからの子どもの歯科医療について
2. 子ども歯科におけるレーザーの位置づけ
3. 子ども歯科におけるレーザーの特殊性
4. 子ども歯科でのレーザーの運用
5. レーザー治療前後の子どもの心の変化

II. 子ども歯科におけるレーザーの運用

1. う蝕支援
2. 歯周疾患支援
3. 小帯切除術
4. その他
 - (1) 歯内療法 特に根管治療
 - (2) 口内炎の処置
 - (3) 疼痛緩和
 - (4) その他

III. まとめ